

# 円勝寺跡・成勝寺跡・岡崎遺跡発掘調査現地公開資料

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

2017年10月21日

所在地：京都市左京区岡崎円勝寺町（京都市美術館敷地内）

調査期間：2017年4月17日～2018年3月31日（予定）

調査面積：1600㎡

## はじめに

この調査は、京都市美術館再整備計画に伴う第4期埋蔵文化財発掘調査です。2014年度の第1期調査から始まった調査の最終年度に当たり、今年度は9ヶ所の調査を行う計画です。現在は美術館北側の2区の東半分を調査中です。

調査地は、平安時代後期に白河の地に建立された六勝寺のうちの円勝寺と成勝寺の推定地です。また、弥生時代から古墳時代の集落跡である岡崎遺跡にも含まれます。

今回は、主に現在調査中の第4期調査2区の成果について説明します。

## 見つかった主要な遺構

縄文時代から古墳時代：調査区のほぼ全域で湿地状の堆積が確認できました（流路180）。縄文時代から古墳時代の土器が出土しています。調査地北側の岡崎公園から調査地南西の京都府立図書館付近にかけて流れる大規模な流路の一部分と考えられます。

平安時代後期から鎌倉時代：調査区北側で東西方向の溝が見つかりました。第1期調査で見つかった溝の延長部分で、二条大路末の南側溝と考えられます。今回の調査地内では、5時期に渡って掘り直しが行われており、長期間維持管理が行われていたことがわかりました。この溝の南側では平行する東西方向の柱列が見つかりました。溝に沿って柵が設けられていた可能性があります。

調査区南東部では、大量の瓦が詰まる土坑が見つかりました（瓦溜355）。瓦の中には、法勝寺八角九重塔が建保元年（1213）に再建された時に葺かれたと考えられる軒瓦が多数含まれます。

調査区南半では多数の柱穴が見つかりました。既に調査を終了した2区西半では井戸が2基見つかり、小規模な建物群が存在したと考えられます。

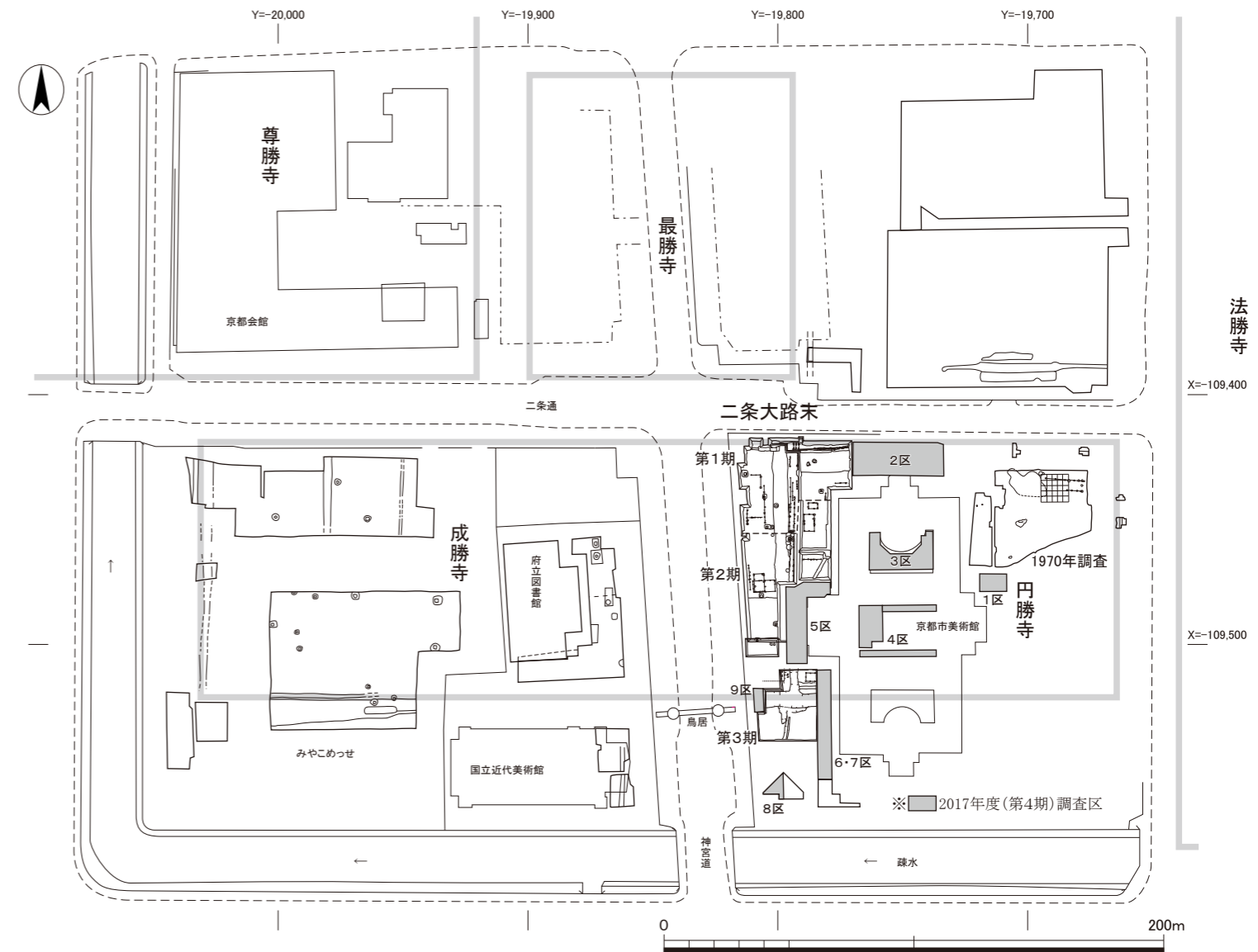
室町時代から江戸時代：調査区全域で東西方向と南北方向の耕作溝が見つかりました。

明治時代：調査区南半で平行する2列の東西方向の柱列が見つかりました。列の間隔は約4mあります。レンガが出土したことから、明治時代の遺構と考えられます。

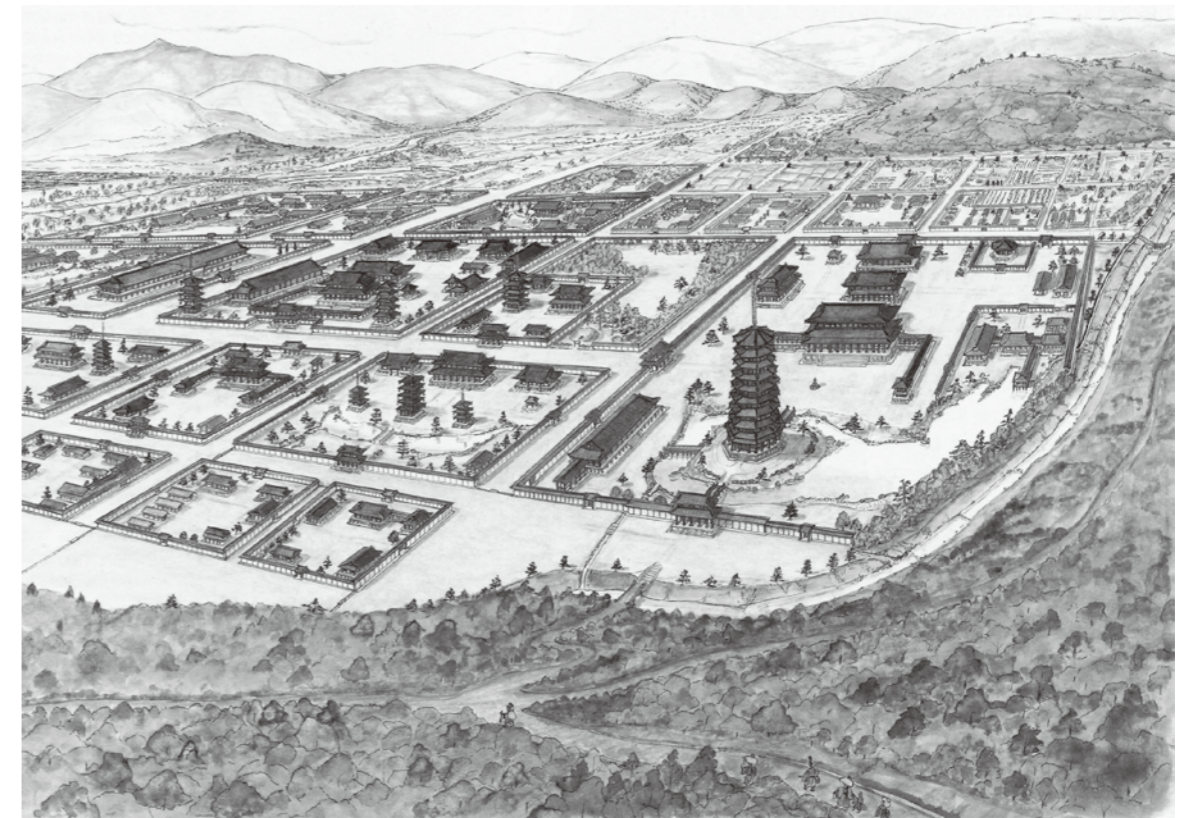
## まとめ

今回の調査では、二条大路末南側溝と考えられる溝が維持管理されていた状況が判明しました。また、円勝寺推定地である調査地に法勝寺に葺かれた瓦が廃棄されていたことも明らかになりました。

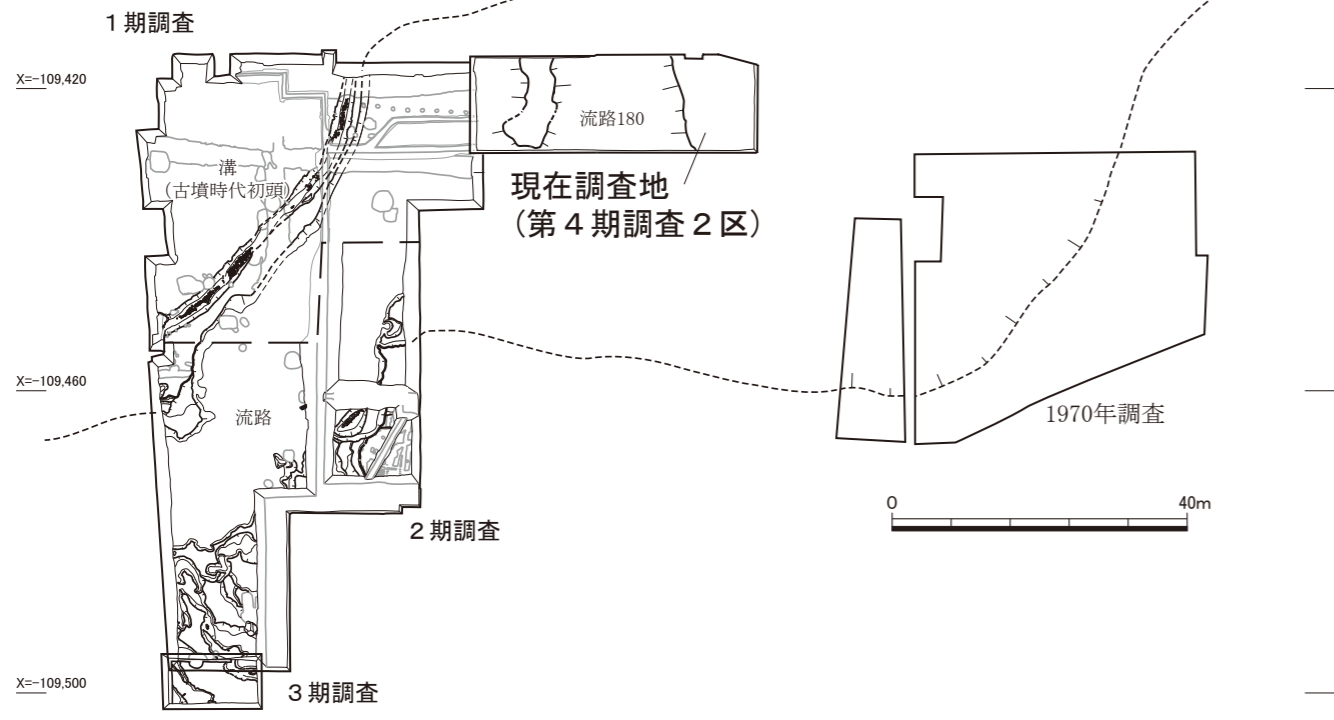
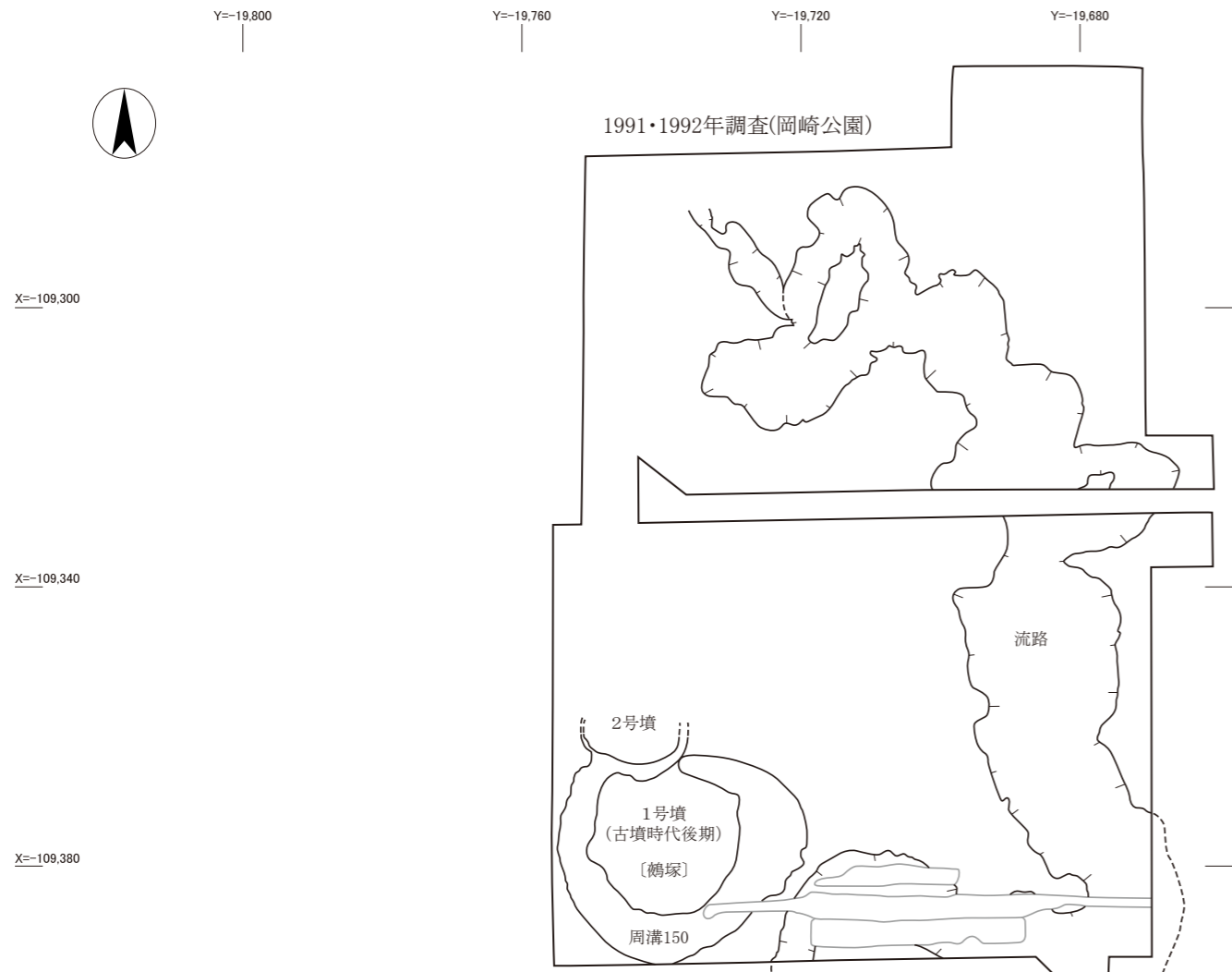
円勝寺や成勝寺の主要伽藍に関わる遺構は、これまでの調査を含めても見つかっておらず、文献資料に記された円勝寺の3つの塔や金堂など多数の堂宇の存在は未だ不明です。残された発掘調査区で痕跡を探すとともに、円勝寺・成勝寺の位置や規模についても再考する必要があると考えています。



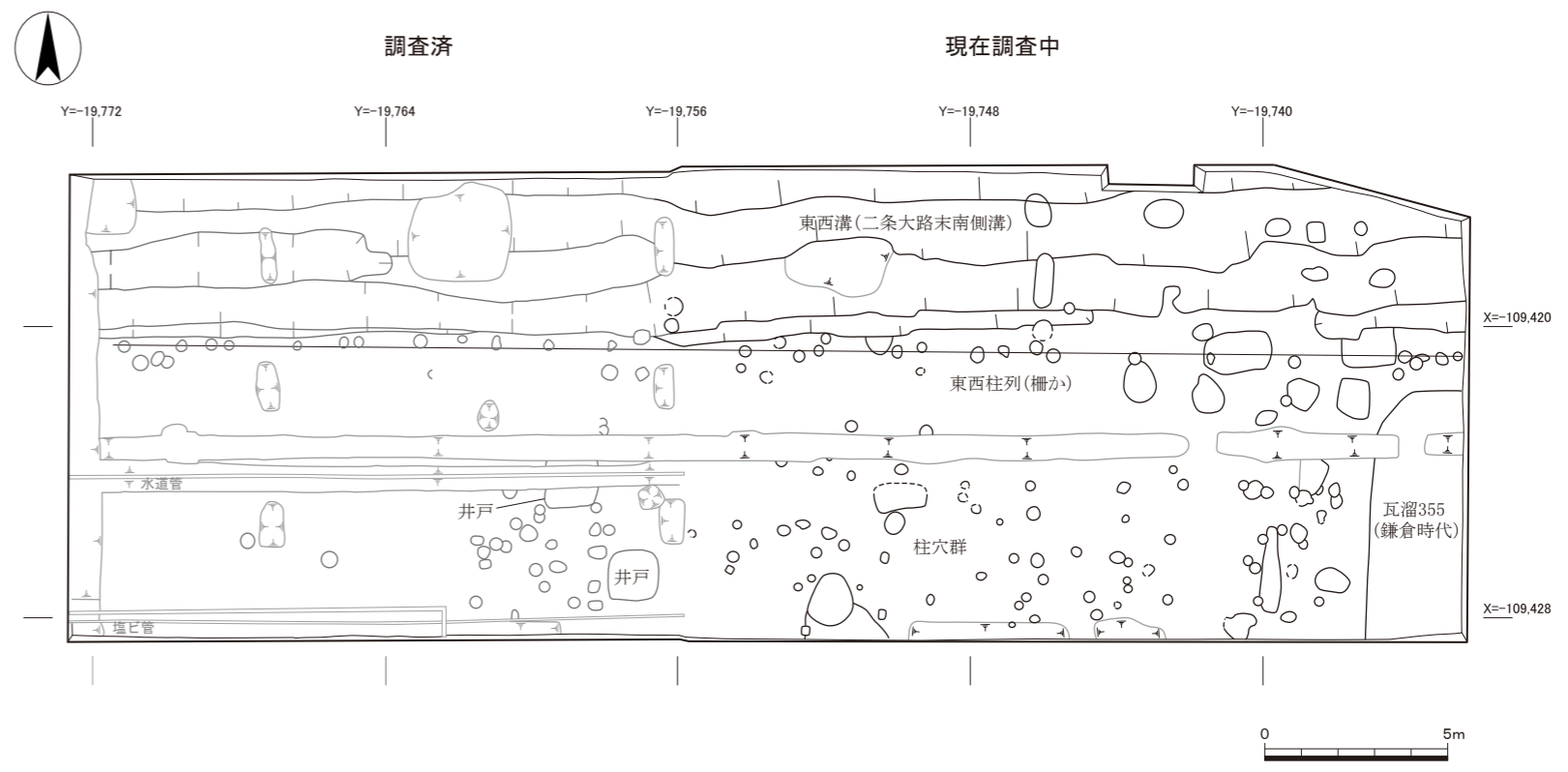
調査地位置図



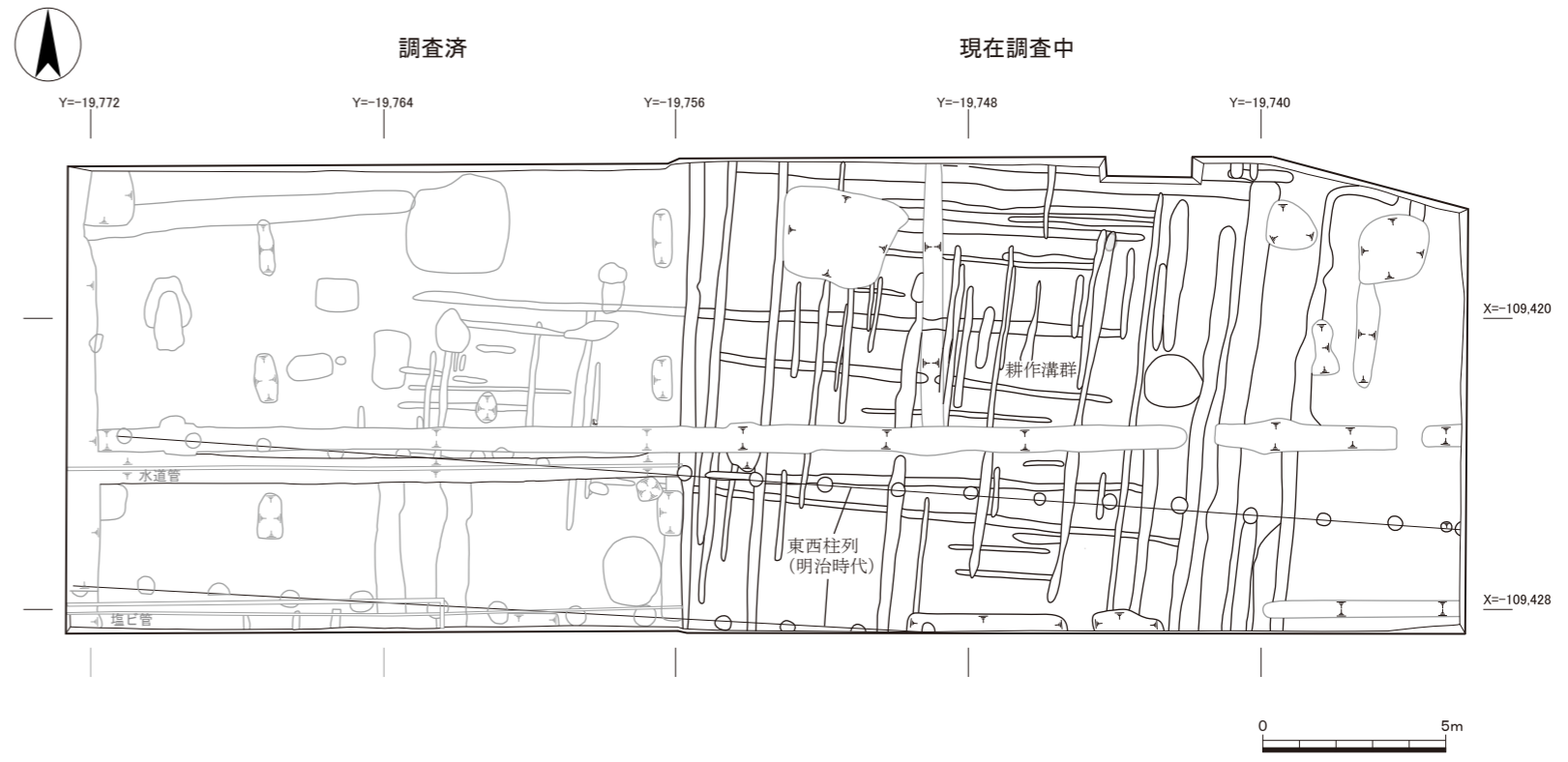
六勝寺イメージ図（南東から、梶川敏夫氏作成）



縄文時代から古墳時代 平面略測図 (1 : 1,000)



美術館第4期調査2区 平安時代後期から鎌倉時代 平面略測図 (1 : 200)



美術館第4期調査2区 室町時代から明治時代 平面略測図 (1 : 200)